

# 『右派はなぜ 家族に介入したがるのか 憲法 24 条と 9 条』 書評研究会

## ◆評者コメント

松本 克美 (立命館大学教授)  
植松 健一 (立命館大学教授)

## ◆執筆者応答

中里見 博 (大阪電気通信大学教授)  
能川 元一 (神戸学院大学ほか非常勤講師)  
立石 直子 (岐阜大学准教授)  
笹沼 弘志 (静岡大学教授)  
清末 愛砂 (室蘭工業大学准教授)



大月書店・208 頁・2018 年 5 月 15 日発行

## ◆全体討論

9 条改憲だけでは戦争する国は完成しない—「個人の尊厳」と「両性の本質的平等」を掲げる 24 条は、9 条と並んで改憲のターゲットとされてきました。それはなぜか？ 本書は哲学、憲法、民法の研究者と弁護士が、「家族」を統制しようとする右派の狙いを読み解き、24 条と 9 条を柱とする「非暴力平和主義」を対置します。

このたび、東京での開催に引き続き、ジェンダー法学会関西支部との共催で、松本克美氏（民法）、植松健一氏（憲法学）を評者に迎え、書評研究会を開催いたします。憲法 24 条や 9 条に関心のある方ならどなたでも参加いただけます。ぜひご参加ください。

◆日時 2018 年 7 月 6 日(金)

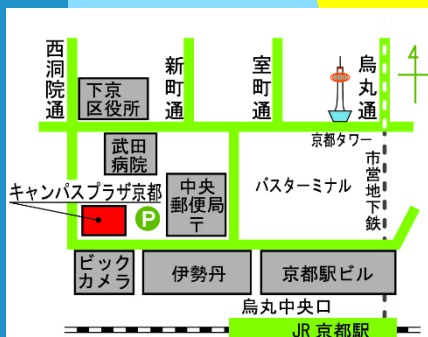
18:30 ~ 20:30

◆場所 キャンパスプラザ京都 2階 第3会議室

JR各線、京都市営地下鉄烏丸線、近鉄京都線「京都駅」下車。徒歩5分。

◆共催 ジェンダー法学会関西支部

◆問い合わせ 立石 直子 (岐阜大学)  
E-mail [tateishi@gifu-u.ac.jp](mailto:tateishi@gifu-u.ac.jp)



※ご参加は無料です